

19. 脳卒中連携パス使用率

(解説) 「連携パス」とは、治療が転院しても行われる場合に、治療の質と継続性、標準化を担保する目的で作製されるものです。脳卒中の場合、近隣にリハビリテーションを専門に行っている病院があり、連携が強化されている場合は率が高くなります。手術を担当した病院が、リハビリテーション終了まで一貫して診療を行っている病院の場合には指標値がゼロ、または、率が低くなります。

(分子) 急性脳梗塞生存退院患者のうち、脳卒中パスで地域連携診療計画加算を算定した患者数

(分母) 急性脳梗塞患者の生存退院患者数

	当院	全国		
		施設数	中央値	平均値
2018年度	31.8%	(139)	8.0%	14.0%
2019年度	33.0%	(135)	2.8%	13.1%
2020年度	34.2%	(134)	0.0%	13.8%
4~6月	34.2%	(134)	0.0%	13.8%
7~9月				
10~12月				
1~3月				

